

## 1. 名古屋学芸大学教職課程研究会編刊

### 『資質・能力を育てる教職カリキュラム研究（教育実践記録集）第2集』

文責 名古屋学芸大学教職課程研究会

#### 1 趣旨・根拠と教職課程運営、教員養成に関わる背景

「名古屋学芸大学 2019 年度主な課題・事業」（同年 4 月評議会資料）の方針に応える企画。「ヒューマンケア学部改組検討」「『子ども心理コース』を『児童発達教育コース』へ名称変更（2019 年度）」「小学校教諭免許取得を中心とした特色の強化、採用試験・教員指導体制の再整備」、「教職課程の見直しへの対応」のなかの「新学習指導要領に対応した教育施設整備の充実」「教職支援センター（仮称）」の設置、「教職課程に係る教員業績取得支援」と記載されていることへの対応の一環である。

#### 2 2019 年度実施理由—課程認定申請とその後への対応—

2020 年 3 月課程認定申請とその後の教育責任指導体制に資するため、専任（特任教授を含む）、客員教授、非常勤講師等の諸先生方の担当科目に関わる「教職課程に係る教員業績取得支援」の一つの機会として実施する（教育実践記録等の作成と公表）。

#### 3 編集方針と構成、日程等

(1) 編集 名古屋学芸大学教職課程研究会（同教職課程委員会）

(2) 編集方針、構成の特色

学長、副学長、学部長、学科長等にも執筆依頼し、大学による全学的・組織的な「教職課程に係る教員業績取得支援」の一つとして位置付ける。また、2019 年 3 月 2 日実施した「2018 年度教職課程探究シンポジウム（教職 FD）」の記録、参加者の感想や考察等を掲載し公開することで、本学における「教職 FD」の全学的取り組み・実践記録ともなり、同時に教職課程「内部質保証」の一つとすることを意図している。

(3) 書式・フォーマットを整え科学論文・教育実践記録の内実を形式で保持する。

タイトル、要旨（概要）、主な参考文献等を明記し教育実践記録であるが研究的・理論的な教育研究業績になるよう科学・学術論文の略形式を保持するよう指定した。

(4) 2020 年 2 月刊行、総頁数 238 頁（執筆者 24 名、33 編収録）、500 部。

関連の大学（学長、教職課程センター長等）、高校（校長）、教育長、教育委員会や文科省等に謹呈し（入試説明会等でも活用）、本学の教育成果公表の一環とする。

#### 4 『（教育実践記録集）第2集』の作成スケジュール（概要）

2019 年 7 月 学長企画室会議で提案、審議

7 月中旬「教育研究業績書」作成説明会（大学事務局）、原稿執筆要項発表

11 月初旬 原稿締切、11 月中旬入稿、校正

2020 年 2 月 14 日（金）納品

以上